



RTX1300やWLX222などの 最新ヤマハネットワーク製品で フリーアドレス化や通信負荷増大に対応

使用機種



ヤマハ10ギガアクセス
VPNルーター「RTX1300」



ヤマハスマートL2
PoEスイッチ
「SWX2221P-10NT」



ヤマハ無線LAN
アクセスポイント
「WLX222」

導入企業様

株式会社トキワ



本社
東京都北区王子1丁目9番5号
京徳ビル5階

URL
<https://www.tokiwa-corp.com/>

1948年の創業以来、品質管理とイノベーションへの投資を通じてビューティーメーカーや新規顧客とのパートナーシップを構築。化粧品メイクアップOEM市場にて10年連続国内トップの地位を保っている。2020年からはサステナブルビューティーに重点を置いた製品開発を行い、受託製造に加えてインフルエンサーのビューティーブランド事業に協力するパートナー役の取り組みも行っている。



お話を伺った方



株式会社トキワ IT本部 部長
長谷川 晶一 様

働き方改革が無事に改善できました。無線LANアクセスポイントとして導入した「WLX222」については現状で十分満足していま

働き方改革が加速していく中で、従業員のフリーアドレス化が進んでいくこと、またWeb会議の需要が大きくなること、さらには多くの従業員が自身のスマートフォンを持って建屋内で利用することにより逼迫してきたWi-Fi通信環境

すが、将来的にはトライバンド対応製品の導入や、「YNO (Yamaha Network Organizer)」を活用した遠隔管理も見据えています。なお今回の機材一式は弊社グローバルテクノロジーセンターに設置しましたが、今後は順次、他の拠点のフリーアドレス化や最新機器の導入も検討していきます。

SCSKについては、営業担当に親身になって製品の導入や検証機貸出の相談をすることができ、大きな安心感を得られました。今後ヤマハ以外の製品を導入する場合でも連携をしていただき、継続して良好な関係を構築していきたいと思っています。



導入の背景

国内外に複数の拠点を持つ株式会社トキワ(以下、トキワ)では、下記のような課題が存在していた。

1. 増え続ける通信負荷への対応

昨今SaaSの利用をはじめとする通信負荷が高まっていた。拠点によっては外部のお客さまが多数訪問するほか、海外からも多くの従業員が訪れる状況が続いていた。いずれも通信負荷を高める要因になっているが、特に海外から来ている従業員については、休憩時間に自身の携帯端末を利用してインスタントメッセージアプリなどを頻繁に利用することとなり、通信負荷が高まる一因になっていた。そのため、400人を超える従業員が一斉に接続しても快適なネットワークおよびWi-Fi環境を確保する必要が出てきた。

2. 様々なWi-Fi環境の需要

従業員の増加に伴って、拠点間の移動も含むフリーアドレス化の動きも出てきた。フリーアドレス化については、Web会議時の安定したWi-Fi通信環境を提供するとともに、従業員によってはグロー

バルIPを指定する通信の必要も生じる。SSIDと暗号化キーが広く伝わってしまう可能性を考慮して、自由に利用できるWi-Fi通信環境と、電子証明書を使ってフリーアドレス下でも的確なグローバルIPを割り当てられるネットワークの2系統を用意する必要が生じた。また、GQP・GVPIに対応したクリーンな環境下を保つため、壁面などに設置するAP配線などもなるべく隠したり、ACアダプタを利用せずホコリなどが溜まらないような環境を保つことが求められていた。こういった多様な環境でも高速・安定した通信を実現できる製品を選定する必要があった。





選定理由

最新製品で課題を解決

「WLX222」は、Wi-Fi 6に対応しており、より多くの端末に高速な通信環境を提供できる。また、「SWX2221P-10NT」をセットで導入することで1ギガビットを超えるWi-Fi 6の性能を最大限に発揮しつつ、PoE対応なのでクリーンさが求められる環境でも安心して利用することができる。以上により、先述の2点の課題解決が見込まれた。



コストパフォーマンス

「RTX1300」は、10ギガビット・NATセッション数最大25万を実現するが、他社の同クラスの性能を持つ製品よりも安価である。ま

た、LANマップを利用することでこれまで利用していたヤマハネットワーク製品の設定を反映でき、自社で短期間に構築できるため、構築のコストを抑えることができると見込まれた。

ヤマハネットワーク製品に対する信頼

トキワでは、これまでヤマハ製品を数多く活用しており、その信頼性を評価するとともに、操作性にも習熟していた。そうした中で新製品の「RTX1300」にかねてより注目していた長谷川氏は、情報収集のために参加した、「ヤマハRTX1300発売記念YouTubeライブ」(2022年9月16日SCSK主催)を機にSCSKの営業担当と打ち合わせを行い、周辺機器を含めて納品遅延の懸念がないことを確認。グローバルテクノロジーセンター(埼玉県川口市)建屋内のフリーアドレス化に伴うリプレーススケジュールに影響がないと判断し、選定に至った。



導入後の効果

通信の高速・安定化を実感

今回のネットワーク構築は、インターネット回線は変更せず、LAN製品のためのリプレースだった。しかし、Wi-Fi 6の高速性・安定性によるネットワークの速度向上を実感し、従業員からも「快適な通信環境になった」と反応があったという。特にLANマップや見える化機能はリモート管理に適しており、近隣のWi-Fi電波やチャネル混雑などの把握・調整などについても十分な対応ができる。

今後の拡張性を見据えたネットワークに

長谷川氏は、「今後はIoT機器やSaaSを利用する機会もより増え、細かなパケットや、より大容量の画像データや動画データのやり取りが増えることが予想されます。今回のネットワーク構築では、将来にわたって安心できる拡張性を確保することができました。」という。



SCSK SCSK株式会社

SCSK株式会社 プロダクト・サービス事業グループ
ネットワークセキュリティ事業本部 ネットワークプロダクト第一部
〒135-8110 東京都江東区豊洲3丁目2番20号豊洲フロント

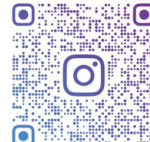
☎ 03-5859-3032 ✉ rt-info@scsk.jp

SCSK株式会社はヤマハネットワーク製品の国内総販売元です。

当部公式SNSにてヤマハネットワーク製品に関する最新情報を日々お届けしております。



Youtube



Instagram



Twitter

記載されている会社名、製品名は一般に各社の登録商標あるいは商標です。